

## 表紙の紹介

### ●表紙のデザイン文字について



表紙の題字は、<sup>せりざわけいすけ</sup>芹沢銈介の絹本型絵染軸「心の字」（1960年）です。本学の芹沢銈介美術工芸館の厚意で使わせていただきました。

芹沢銈介先生（1895－1984）は、20世紀の日本を代表する染色工芸家です。<sup>やなぎむねよし</sup>柳宗悦（1889－1961、手作りの日用品に「用の美」を見出す<sup>みんげい</sup>民藝運動の創始者）を師とし、<sup>かたえぞめ</sup>型絵染を中心として情熱的に多くの作品を生み出しました。1956年に型絵染で人間国宝（重要無形文化財保持者）に認定され、1976年に文化功労者の称号を受けました。すぐれた審美眼を持っており、世界各国の工芸品を収集したことで有名です。また、芹沢先生は東北地方の風土と文化を

こよなく愛し、仙台の定禅寺通りと青葉通りの<sup>けやき</sup>欒並木に心を和ませ、鳴子温泉にしばしば逗留されたといわれます（本学・芹沢銈介美術工芸館のホームページの館長挨拶より）。

芹沢銈介先生の染色への情熱と作品・収集品について、芹沢銈介美術工芸館で直に触れてください。また、以下のホームページで見することもできます。

芹沢銈介美術工芸館 <http://www.tfu.ac.jp/kogeikan/>

静岡市立芹沢銈介美術館 <http://www.seribi.jp/>

### ●「心」の題字について

心の題字には、「福祉の心」の意味が込められています。福祉の心とは、「人々の幸せを願い、それを実現するために最大限の努力をしようとする姿勢」（『With』18、2004より）であり、「人間の持つ可能性をさらに深く探求し、人間一人ひとりが生きがいと自立を見いだし、一層の『生活の質（QOL）』を高め合う社会が実現できるよう願う」心です（本学ホームページ「建学の精神及び教育の理念」より）。それは、社会福祉のみならず、教育でも、医療・看護でも、マネジメントでも、どの分野であっても、共通して最も大切なものです。その福祉（well-being）の心を大切にし、それを土台としてそれぞれの分野について学び、社会に役立てていこうとの思いが込められています。

### ●シンボルマークについて



本学のシンボルマークは、上部に英字で「TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY」と冠し、下部の左右に<sup>せんだん</sup>梅檀の葉を配しています。中央には地球をモチーフにした楕円を組み合わせ、人類に寄与する壮大な思いを表しています。楕円の重なりが2つのハートを示し、**こころの時代**を象徴しています（本学ホームページ「大学の概要」より）。

なお、二つの楕円の組合せは、右手と左手の合掌にも見えます。合掌は2つの調和（仏と自分、聖と俗、仏の智慧と人の行動が一つになること、心を通わせること）を意味し、相手を敬い、感謝し、幸せを祈る心を表しています。「福祉の心」「行学一如」「自利・利他円満」にも通じています。